

テーマ・目的「介護施設における外国人労働者の受け入れに関する研究」

はじめに

外国人が日本で働くにあたり様々な障壁が生まれることが現実に見られる。外国人の方にストレスが少なく、やりがいを持って働いてもらうにはどのようにすれば良いのかを考えることは受け入れる企業にとって至上命題と言える。どうすれば効率的に仕事を覚え、周囲との信頼関係を築くことが出来るのか。どのようなサポートをすれば、いち早く職場環境に慣れることが出来るのか。それを解決するために、いくつかのアプローチ方法を考案・実施し経過を追っていった。

1. 仮説・予想

- ①仕事を覚えてもらうのも、周囲との信頼関係を構築するのも、言語の習得が最重要事項であると考え。特に、高齢者施設ではただ単に言葉を覚えるのではなく、目上の人に対する言葉遣いに配慮する必要がある。そのため、言語の習得が進めば、いくつかの障壁は解消されると予想される。
- ②仕事に対する考え方、高齢者に対する考え方を学んでもらう必要性があり、この部分は日本の福祉を知ってもらう、職場環境に慣れるためには必要になってくる要素ではないかと考えている。
- ③上記の中でも、最初の数週間、1ヶ月間どのようにコミュニケーションをとったら良いのかを思い悩むことが予想されるため、入職時の対応が重要となる。「仕事を覚える」より先に「安心できる」を作ることが最優先となるのではないかと考える。
- ④日本の職場では、暗黙ルールや空気を読む文化というものが根付いているため、それを理解してもらうための「見える化」も必要となる要素ではないかと考える。

↓

これらの仮説・予想をもとに調査方法・アプローチ方法の立案・実施へと進める

2. 調査方法・アプローチ

【調査方法】

質的調査を採用：人の経験・意味・感情・価値観を深く理解する方法

インタビュー調査：対象者に話を聞く方法

参与観察：研究者自身が現場に入り観察する方法

縦断調査：時間変化を追う

比較研究：集団間を比較する

【アプローチ】

- ①言葉の壁を取り払うため、定期的に日本語の勉強会を開き交流を図る。
 - ・言語だけで伝えるのではなく、ジェスチャー、図解、多言語表示、実演などを使い、伝える工夫を行った。
 - ・言葉だけを覚えてもらうのではなく、言葉の説明を行い、日常会話も勉強会の中で行う。
 - ・外国人同士でも職場では出来る限り日本語で会話してもらう。
 - ・特に安全管理では確実に分かってもらう必要があり、「実際にやってもらう」「復唱してもらう」「手順を説明してもらう」などの確認を行う。
- ②必ずマンツーマンで指導につき、孤立させない（メンター制度、ペア作業）。
 - ・メンター制度により、必ず2人1組で動くようにする。
 - ・メンター制度により、相談しやすい環境を作る。
 - ・ペア作業により、円滑に仕事を覚えてもらう。その都度技術指導を行う。

3. 結果

- ①“言葉の壁を取り払うため、定期的に日本語の勉強会を開き交流を図る。

言葉や文章力が身に付いてきているだけではなく、もともと備わっていた向上心も上がっている。日常会話を学ぶ上でも良い機会になっており、職員との交流を図る場にもなっている。外国人労働者の方からは、こういう勉強会を通じて話が出るのは「嬉しい」とのこととも言われています。

 - ・理解力・表出力ともに徐々に上がってきている。表出する方が難しさを感じているように思われる。
 - ・指導する側の問いかけに、理解していなくても理解しているかのように返答することがある。
 - ・日常的な会話能力が上がりにくいいため、段階的に「会話」というものに着目した学びの場を作る必要性がある結果が見られている。
- ②“必ずマンツーマンで指導につき、孤立させない（メンター制度、ペア作業）
 - ・メンター制度・チーム制での指導を行うことで、必ず2人1組で動くことが出来ており、孤立させない状況は作り出すことが出来ている。
 - ・ペア作業により、その都度指導を行うことが出来ており、円滑に仕事を覚えることができています。また、その場で技術指導を行うことが出来ているので、技術の向上にもつながっている。
 - ・メンター制度により、先輩に相談に乗ってもらいやすい環境を作ることが出来ている。

4. 考察・結論

- ・日本語の習得に関しては、勉強会を継続していき交流を図っていくことで、習得速度の促進を図ることが出来ていると考える（徐々に）。勉強会で言葉を覚えるだけではなく、言葉や文章を表出する機会を作るという意味でも有意義な時間ではないかと思われる。継続は必須であると結論づけることが出来る。
- ・指導する側の問いかけに、理解していなくても理解しているかのように返答することがあるため、その辺に配慮して確認する必要がある。
- ・メンター制度（チーム制）、ペア作業を行うことで、「孤立させない」「効率的に仕事を覚えることが出来る」「その都度指導を行うことが出来る」「相談しやすい環境を作る」など、外国人受け入れに関しても非常に有用であると考えられる。継続は必須であると結論づけることが出来る。

以上

以下、勉強会資料

認知症について

認知症とは、一度正常に達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続性に低下し、

日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態（日本神経学会）

脳の病気により、記憶力、判断力、理解力などの認知機能が低下し、これまで当たり前に行っていた日常生活の動作に困難が生じます。

① 認知症の原因となる主な病気

- ・アルツハイマー型認知症
- ・レビー小体型認知症
- ・脳血管性認知症（脳梗塞・脳出血など）

② 中核症状

認知症は、加齢による脳の病的な変化や、病気などによる脳の障害によって脳の細胞が壊れることで発症します。壊れてしまった脳の細胞が担っていた役割が失われることで起こる症状を「中核症状」と言います。

- ・「今まではできていたこと、例えば掃除や洗濯等の家事や趣味の活動が、認知症という病が原因で少しずつ上手にできなくなってきた」

・「会話の理解ができず、つじつまが合わない発言が増えた」

・「時間や場所が分からない」

・「日常生活に支障をきたすようなものの忘れが頻回にある」

こうした症状が中核症状です。

中核症状とされる主な障害について

記憶障害

・夕食を食べたことを忘れる

・ものの忘れが激しく、ヒントがあっても思い出せない

・昔のことはよく覚えていのに、最近の出来事を忘れている

失語

・言葉が出てこない

・”あれ”や”それ”といった言い方が多くなる

・言葉の意味が分からず、会話のつじつまが合わない

失行

・服をうまく着ることができない

・箸やハサミなどの使い方が分からない

失認^{しつにん}

- ・目の前^{めまへ}にもものがあることが分^わからない
- ・物^{もの}や人^{ひと}によくぶつかる
- ・時計^{とけい}の文字盤^{もじばん}が読^よめない

見当識障^{けんとうしきしょうがい}害

- ・季節感^{きせつかん}のない服^{ふく}を着^きている
- ・近所^{きんじょ}で迷子^{まいご}になる
- ・昼夜^{ちゅうや}の間隔^{かんかく}がズレ^{ずれ}、夜中^{よなか}に出かけようとする
- ・友人^{ゆうじん}や家族^{かぞく}が分^わからない

実行機能障^{じっこうきのうしょうがい}害

- ・料理^{りょうり}がうまく作^{つく}れない
- ・段取り^{だんど}よく行^{こう}動^{どう}できない

③BPSD（行^{こう}動^{どう}・心^{しん}理^り症^{しょう}状^{じょう}）

いっぽう、中核症^{ちゅうかくしょうじょう}状^{じょう}によって引き起^ひこさされる二次^{にじ}的な症^{しょう}状^{じょう}を「行^{こう}動^{どう}・心^{しん}理^り症^{しょう}状^{じょう}」と言^いい

ます。中核症^{ちゅうかくしょうじょう}状^{じょう}が現^{あらわ}れることによって、精神^{せいしん}的に落^おち込^こんだり、できな^あいこと^せに焦^{あせ}

り^{かん}を感じたり、不安^{ふあん}にな^あったり、このよう^{せい}な性^{かく}格^{しん}や心^り理^{じょう}状^{きょう}況^{きやう}が原^{げん}因^{いん}とな^おって起^あきる

しょうじょう こうどう しんりしょうじょう
症 状 が 行 動 ・ 心 理 症 状 です。

① 徘徊、② 暴言・暴力、③ 物盗られ妄想、④ 幻覚（幻視・幻聴）、⑤ 抑うつ・

あばしー
アバシー

⑥ 不安・焦燥、⑦ 介護拒否